

## 2017年度第4回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2017年8月28日（月） 午後6時30分から
- 2 場 所：国分寺労政会館 第2会議室（3階） （国分寺市南町3-22-10）
- 3 議決権のある理事：8名  
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、堀 渡、堀越洋一郎、矢崎省三  
欠席者：清田義昭  
事務局：

### 4 報告及び協議事項

#### （1）第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2017年8月1日現在  
正会員88名2団体、賛助会員45名1団体、計133名3団体（合計136）
- ・4月の年度更新にあたり、正会員から賛助会員に移る方が複数おられ、会員総数も138から微減となったが、その後の変化はない。
- ・2017年度の会費納入状況は、正会員84.4%、賛助会員73.9%、全体で8割を超えている。

#### （2）第2号議案 多摩デポ通信第43号と多摩デポブックレット11号の発行について【報告】

##### ①多摩デポ通信第43号について

- ・8月12日に多摩デポ通信第43号を印刷・発行した。（印刷部数270部）
- ・この時期に行った活動の報告、参加者の感想等の記事の他、企画を具体化した「第30回多摩デポ講座」の案内、そして堀越新理事と平山顧問による提言を掲載することができた。
- ・通信43号に同封して、完成した、多摩デポブックレット11号『書物の時間—書店店長の想いと行動—』福嶋聡著と、第30回多摩デポ講座のチラシを発送した。
- ・会員には『文化通信』5月29日増刊号「永江朗氏講演会」の紹介記事及び「よみうりたま手箱」コラム（5月17日『読みたい』に応える使命 蓑田明子）のコピーを同封した。

##### ②多摩デポブックレット11号について

- ・同11号『書物の時間—書店店長の想いと行動—』福嶋聡著を1000部発行した。
- ・昨年2月の第25回多摩デポ講座の講演を元にしており、完成には時間がかかったが、ここ数年に起こり社会的に議論されていた様々な話題について、福嶋氏の考えや行動が率直に展開された講演録になった。書店・出版界と図書館の関係、電子書籍に対する「紙の本」、「ヘイトスピーチ」の問題、書店現場でのお客やクレマーとのやりとりなど、現場の日々の問題を語っているが、図書館関係者を含め、時代を共有する幅広い方々に共感を持って読んでいただける内容になっているのではないかと。
- ・「書店・出版界」、「図書館界」といった違う業界の話として読んでほしくない。
- ・ただし、反響・手ごたえをいただくのはこれからである。  
→ 全国図書館大会で販売もしくはチラシ配布ができないか、あたってみる。
- ・今年度総会後の記念講演会の永江朗氏「図書館の「捨てる」と残す」への期待と不安—出版産業の危機の中で／書き手として、利用者として」は、永江氏からブックレット化の了解を得て、講演録音の文字化の粗起こし中である。

#### （3）第3号議案 （株）カーリルとの共同研究および（株）バリューブックス上田倉庫の見学について【報告】

### ①(株)カーリルとの共同研究について

- ・6月23日(金)(午前中に国分寺市で第2回 TAMALAS 地域説明会を開催した日の午後)と8月4日(金)の夜に共同研究定例会を行った。
  - ・TAMALAS の個別検索の発展形である、大量一括蔵書検索処理システムの公開の仕方について検討を行っているところである。
  - ・公開にあたり、活用マニュアルを作って表示する必要を確認しているが、まだ進んでいない
  - ・システムは多摩デポホームページから入れるようにする予定だが、使う図書館から多摩デポへの利用申請書提出や使う図書館へのパスワード付与等が考えられている(図書館側は自館データを外部システムにアップロードすることになるので、何らかの申請手続き過程があった方が使いやすいのではないか)。相互貸借システムの申請書が参考になるのではないか。「使用に費用がかからない」ことの明示はまず必須。
- 利用手続きを設けるのは、参加のハードルが高くないか? 必須ではなく、使いたいところだけは使えるように用意したらよいのでは?
- ・そろそろホームページでの公開予告をすることや、ID・パスワード・申請書についてのお知らせ、レイアウト等を事務局会議で検討して、研究会に臨む予定。
  - ・本公開の前に、このシステムでの検索結果の検証作業をさらにおきたい。
  - ・ISBN無し資料の検索については、(株)カーリルの方で、カーリルのシステムを使った多摩地域横断検索システムを開発中であり、この活用も考えられる。
  - ・関連して、ネット古書店、(株)バリューブックスの上田倉庫に、書誌同定と在庫管理の仕組み等を見学に行くことになった。

### ②(株)バリューブックス上田倉庫の見学について

- ・Amazon と提携しているネット古書店大手、(株)バリューブックスのストック倉庫及び物流拠点(上田市)を8月8日(火)午後には訪問し、見学させてもらった。
- ・研究会で「ISBN無し出版物」をどう書誌同定するか、現物を集めた場合どう管理するか、という議論の中で出てきた見学訪問だったが、現在の(株)バリューブックスは「ISBN無し出版物」は扱っていなかった。買取り依頼されても断り、寄贈されてきても、活用せずに現物処分してしまっており、そのことでは全く参考にならなかった。
- ・ただし事業規模が十年で驚異的に拡大し、その要因が、古書の集荷が「買取り7割、寄付3割」という斬新な実態にあり、そのことで集荷の安定的拡大と仕入れ費用低減をもたらしていた。深いところで、我々にも大変刺激になった。
- ・「チャリ本」と称していたが、数十大学と提携して買取り費用の大学への寄付と組み合わせて学生OB、家族などからの大量かつ安定的な集荷、あるいは陸前高田市被災支援その他の指定寄付と組み合わせた、不要書籍集荷システムの成功である。
- ・一日に3万点が集まるとのことだったが、廃業した巨大なホームセンターの建物など3棟を使って、集荷物の整理、データ付与、配架、注文受け、梱包。別棟では「納品者への査定連絡」等を行っていた。コミックではそれだけで別の1棟が稼働していた。
- ・一方で、リサイクル本だけを使った魅力的なブックカフェを上田駅近くで開業。その隣ではスマホのフェイスブックを貸出・利用者管理に使った公共図書館の試みを始めていた。
- ・ネット古書店の中でもこの社は、Amazon の書誌データに依存し、Amazon の書籍通販の軒下で営業しているので、書誌的には我々の参考にはならなかったが、(先日の永江朗氏講演中の言葉を借りれば)「読書離れなんかしていない、30年前と人々の読書率は同じ、この間の公共図書館の利用増を含め、書籍流通と読書のチャンネルが劇的に多様化しているのだ」ということを目の当たりにした。買って読み終わった本のリユースの回路が、(先行したBOOK OFFとは

違ったイメージや意味付けを持って) 成立していた。

- ・「資源循環型社会」「リサイクル」「寄付・贈与経済」などの、時代のトレンドを体現したビジネス。この波も受けて、出版界はどう生き続けるか。図書館はどうかになるのか。
- ・そうであればあるほど、バリューブックの刺激にうながされ(副次的に大量に集まるが)現状では流通に乗せられず廃棄処分されていくだけという「ISBN無し出版物」が勿体ない!
- ・分類せず受入れ順に排架している在庫管理の仕組み・状況は、実感として感じる事ができた。
- ・スペースは広いが古い施設で空調も整っていない。狭い間隔で書架が並ぶ。保管環境としては良好ではない。梱包は農家の野菜の梱包機を改良した機械を使っていた。
- ・集まってきた本を素材に、地域貢献的な側面を持つ新たな活動もやり始めている。本をどう活かしていくかの視点が、今後どういう形となっていくのか。
- ・本を手放したい人にとっての面倒な手続きや処分・配送の費用を負担する形で、数を集めて商売を成り立たせている。
- ・捨てられる本をどれだけ拾えるか、目利きを育てていけるかどうかは課題となるのでは?
- ・改めて、図書館で保存することの意味や、「民間ではやれないこと」の可能性や課題を考えた。
- ・齊藤理事が見学記を書いており、『出版ニュース』9月上旬号に掲載される予定。

#### (4) 第4号議案 第30回多摩デポ講座の実施について【報告・協議】

- ・第30回多摩デポ講座(パネルディスカッション)

日時:9月18日(月・祝) 午後6時30分～

会場:国分寺労政会館 第3会議室(3階)

テーマ:「除籍候補資料の処理を考えるー除籍と保存のジレンマを解消するためにー」

パネリスト:中原千佳氏(西東京市図書館)、

吉本龍司氏((株)カーリル代表)

堀越洋一郎(多摩デポ・理事)

コーディネーター:齊藤誠一(多摩デポ・理事)

※各館のワークフローをかみ合わせる企画は重要だが、成功するには、多くの図書館から参加者が集まり、いろいろな事例が交換される場となる必要がある。

※以前、理事会で、所蔵資料の除籍と保存を各館でどう行っていくか、現場の選書力を維持し高めるための研修会を、多摩デポは館長会との協力事業として行なうことを検討する必要があるのではないかと言われたことがあるが、各館の除籍と保存のワークフローを話題にしており、今後の工夫と参加者の開拓により、その課題にも一部応えた講座になりうる。

※デポ側の発言予定、大量一括蔵書確認システムの予定内容、「配布資料」作り。参加者の開拓などが課題となっている。→具体的には、9月5日の事務局会議で詰めていきたい。

- ・それに先だって、7月28日に、齊藤、堀越、堀で西東京市に中川館長を訪問し、多摩デポ講座の企画のため、担当者を交えた詰めと、館長会の現状を伺った。

- ・多摩デポ講座での参加費徴収の考え方について協議した。講師の側の事情がない限り、今後基本的には参加費をいただく、という方向でまとまった。

#### (5) 第5号議案 第3回TAMALAS地域説明会について【報告・協議】

- ・6月23日(金)午前9時30分～12時、国分寺市で、多摩地域図書館長会第二ブロック(立川市、国立市、国分寺市、昭島市、東大和市、武蔵村山市)の合同職員研修会として第2回TAMALAS説明会を開催してもらった。活用している市(国分寺、立川、武蔵村山等)からは大きな反響が

あった。大量一括情緒確認システムについても、期待が出された。

- ・次の第3回説明会の開催をブロックの図書館長に相談に行く予定である。
- ・この説明会の中では、大量一括蔵書確認システムのことも、その時点での最新情報を伝え、公開方法等についても意見交換できればと考える。

#### (6) 情報交換

- ・平山前理事長宅訪問（7月6日）について
- ・事務所パソコンの不具合について  
データ救出は引き続き努力するが、ハードは使えないので、パソコンは買い替える。→ 事務局で対応
- ・黒子元顧問の蔵書の整理について
- ・多摩デポパンフレットの改訂について
- ・図書館情報学関係の学会誌等へ、現在までの開発内容を執筆・発表することについて
- ・その他

#### 【多摩デポ記事】

- ・永江朗氏講演会「図書館の「捨てると残す」への期待と不安ー出版産業の危機のなかで 書き手として、利用者として」多摩デポ総会記念講演会 報告 東京発：蓑田明子  
『みんなの図書館』2017年9月号（no. 485） “各地のたより” 欄 p.64～p.67
- ・バリューブックスの見学記について（齊藤誠一） 『出版ニュース』9月上旬号掲載予定

- ★ 次回の理事会 2017年10月18日（火） 午後6時45分～ 国分寺労政会館予定
- ☆ 次回の事務局会議 2017年9月5日（火） 午後6時30分～ 調布たづくり
- ★ カーリルとの共同研究 第27回定例会  
9月18日（月） 午後3時～ 場所 国分寺労政会館 第2和室

#### 5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、田中ヒロ理事、矢崎省三理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2017年8月28日

議長  
議事録署名人  
議事録署名人